

小・中学校等の学校適正配置等に関するアンケート結果 【教職員】

【アンケート結果の見方】

- ・集計結果を表すグラフでは、数値の小数点第2位を四捨五入して表示しているため、表記上、内訳数値の合計が100%にならない場合があります。
- ・本文中の「n」は、設問に対する回答者数です。
- ・選択肢から複数回答が可能な設問は、回答者数に加え、選択された回答数の合計を「件数」で表しています。

回答者の属性

●回答者数

回答者区分	回答者数	対象者	回答率
小・中学校等の教職員	820	982	83%

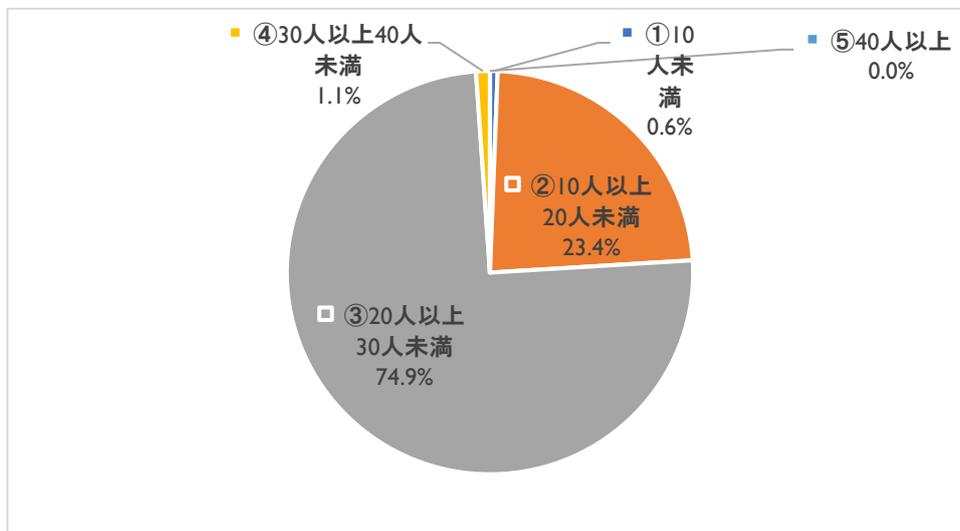
●勤務している学校

	学校名	人数
1	小山第一小学校	30
2	小山第二小学校	10
3	小山第三小学校	17
4	小山城南小学校	40
5	旭小学校	19
6	小山城北小学校	30
7	若木小学校	18
8	東城南小学校	40
9	小山城東小学校	47
10	大谷東小学校	39
11	大谷南小学校	13
12	大谷北小学校	43
13	間々田小学校	23
14	乙女小学校	20
15	間々田東小学校	16
16	下生井小学校	11
17	網戸小学校	6

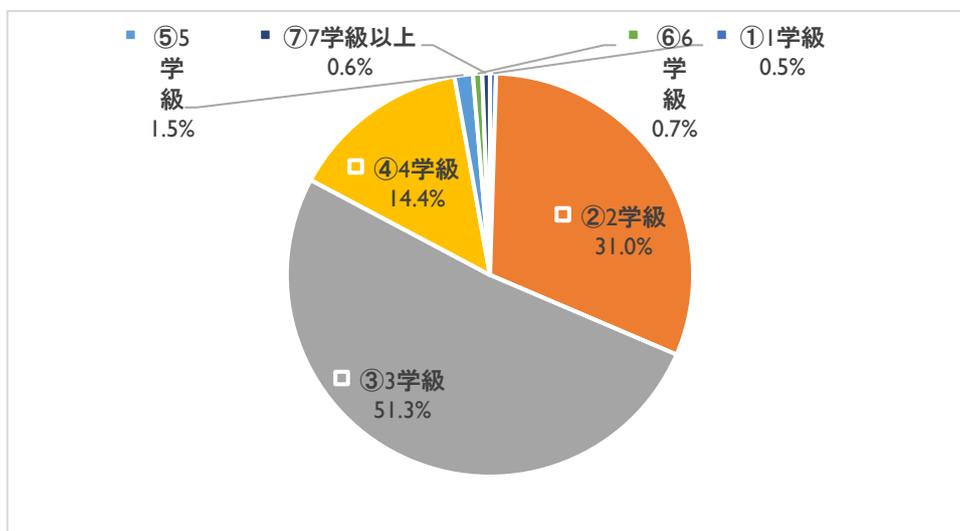
18	寒川小学校	14
19	豊田小学校	15
20	穂積小学校	14
21	中小学校	11
22	羽川小学校	40
23	羽川西小学校	17
24	萱橋小学校	15
25	小山中学校	32
26	小山第二中学校	14
27	小山第三中学校	32
28	小山城南中学校	39
29	大谷中学校	37
30	間々田中学校	14
31	乙女中学校	20
32	豊田中学校	16
33	美田中学校	16
34	桑中学校	32
35	絹義務教育学校	20
	総計	820

小・中学校等の学校規模について

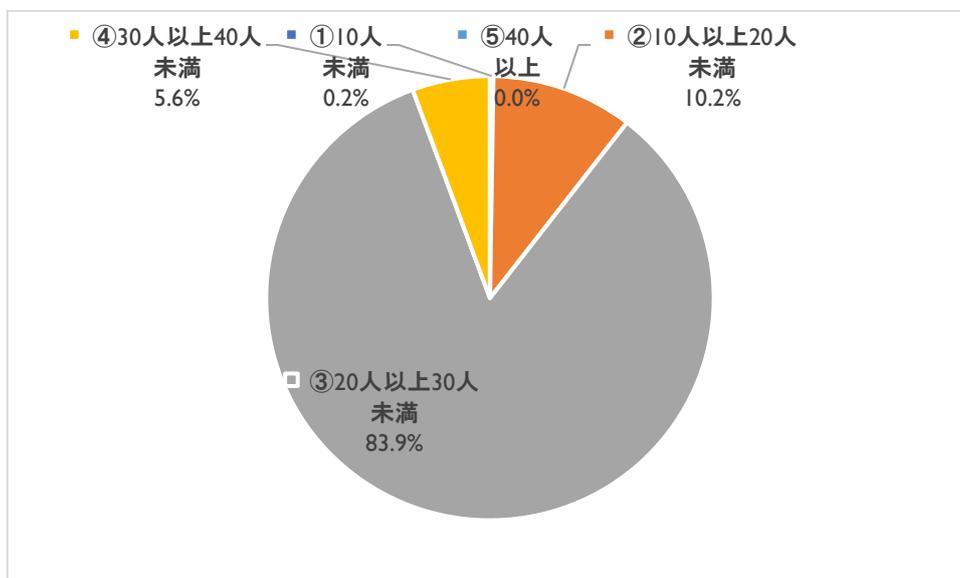
問2. 子どもたちのより良い教育環境等のために、小学校は、1学級あたり何人程度の規模が望ましいと思いますか。(n=820)



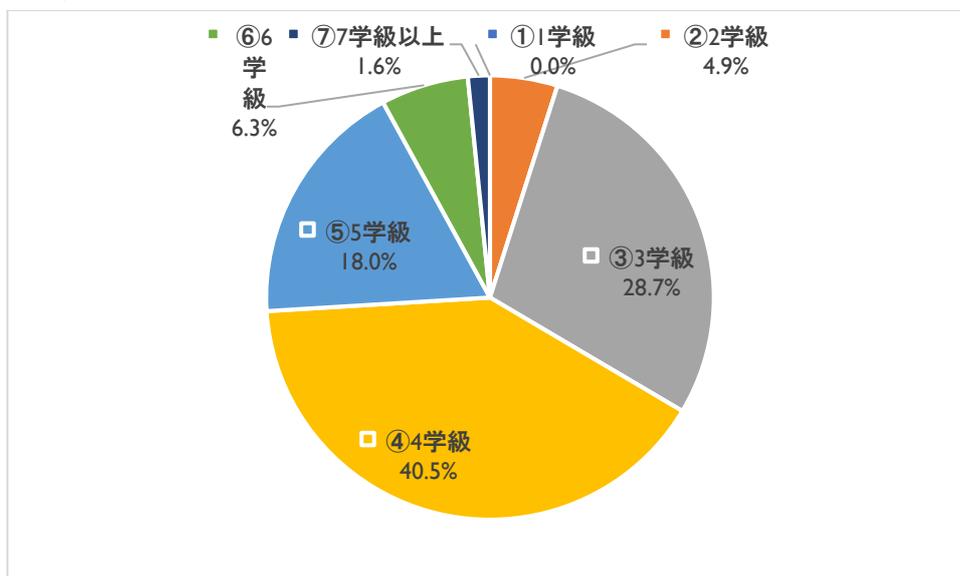
問3. 同様に小学校の学級数は、1学年あたり何学級程度の規模が望ましいと思いますか。(n=820)



問4. 子どもたちのより良い教育環境等のために、中学校(義務教育学校(後期課程)を含む。以下同じ。)は、1学級あたり何人程度の規模が望ましいと思いますか。(n=820)

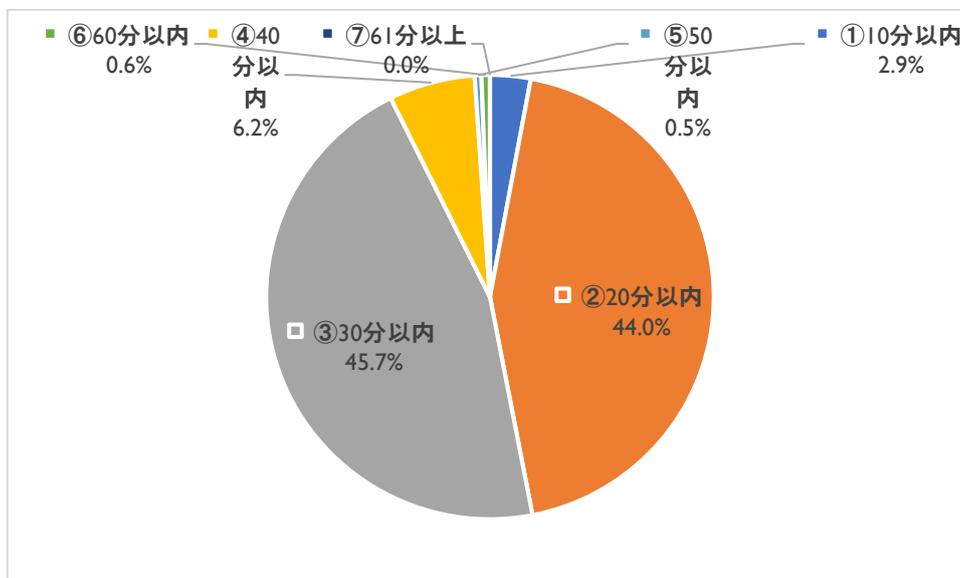


問5. 同様に中学校の学級数は、1学年あたり何学級程度の規模が望ましいと思いますか。(n=820)

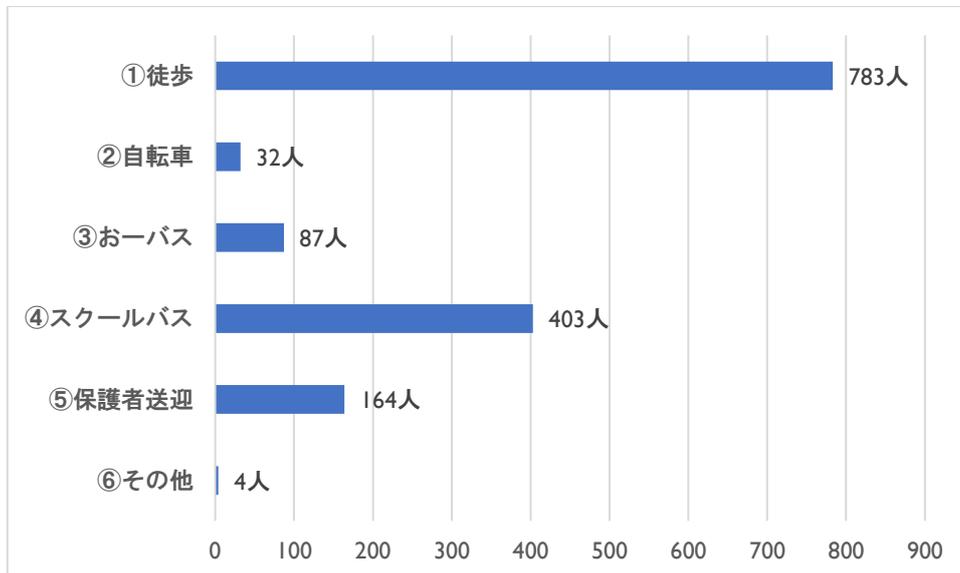


通学時間と通学方法について

問6. 小学生の片道の通学時間は、通学方法に関係なく、どのくらいまでが限度(最長)だと思いますか。(n=820)



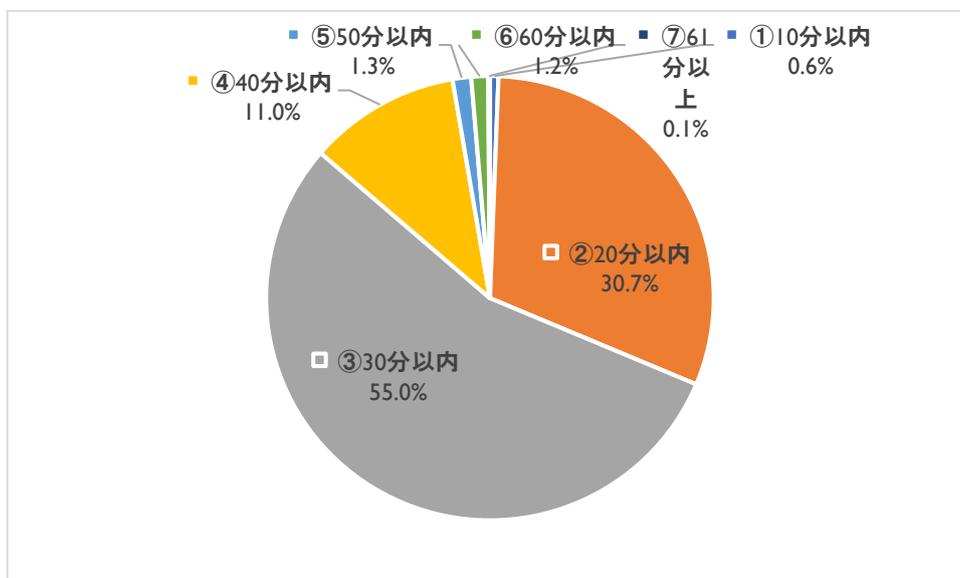
問7. 小学生の通学方法としてどのような方法が適当だと思いますか。(複数選択可)
(n=820(複数回答)1,473)



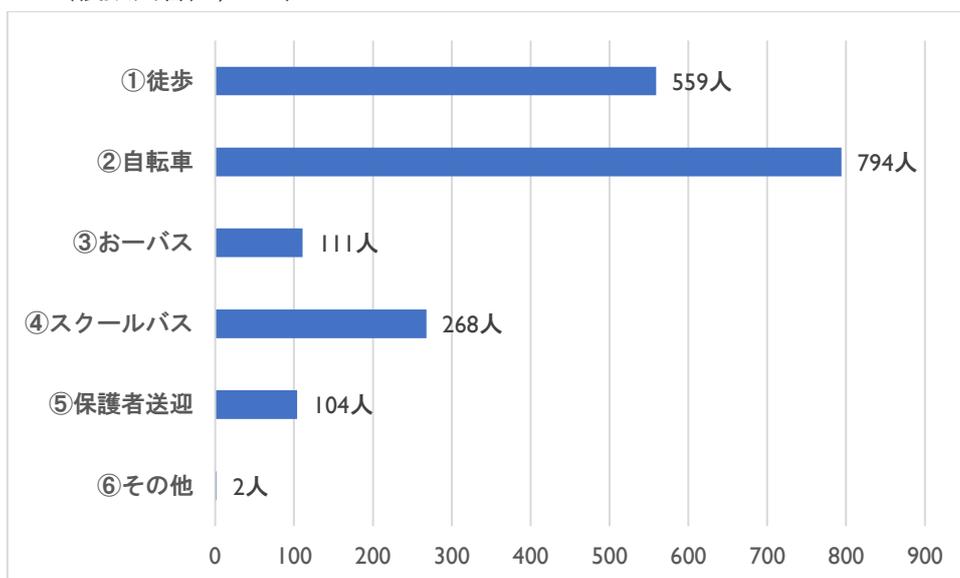
その他のご意見

- ・集団登下校
- ・徒歩30分を超える場合は、スクールバスが必要だと思う。
- ・現状、小規模校は途中までの保護者の送迎が必要であるが、保護者送迎は現実的ではない。

問8. 中学生の片道の通学時間は通学方法に関係なく、どのくらいまでが限度(最長)だと思いますか。(n=820)



問9. 中学生の通学方法としてどのような方法が適当だと思いますか。
(n=820(複数回答)1,838)



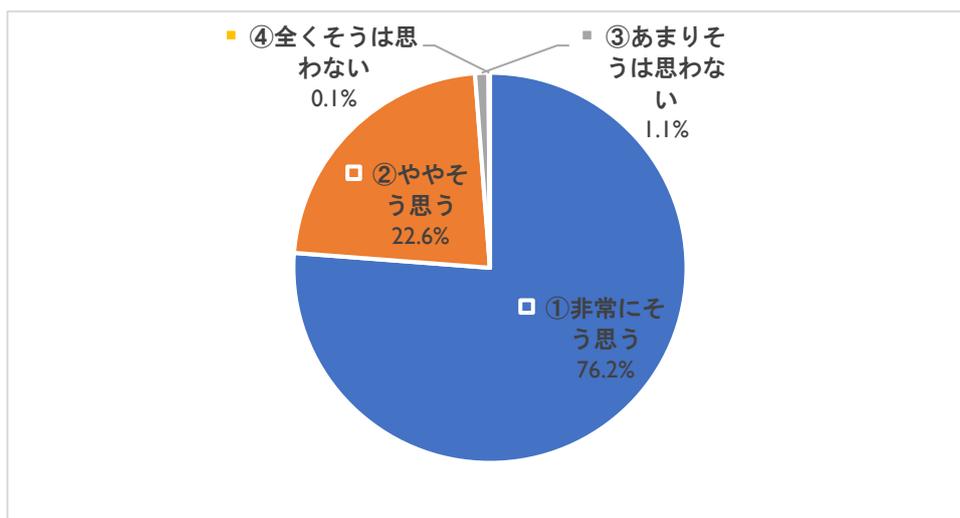
その他のご意見(回答例)

- ・通学方法よりも通学中の事故等があった場合の責任がどこにあるかが大切だと思います。
- ・公共交通機関(電車)

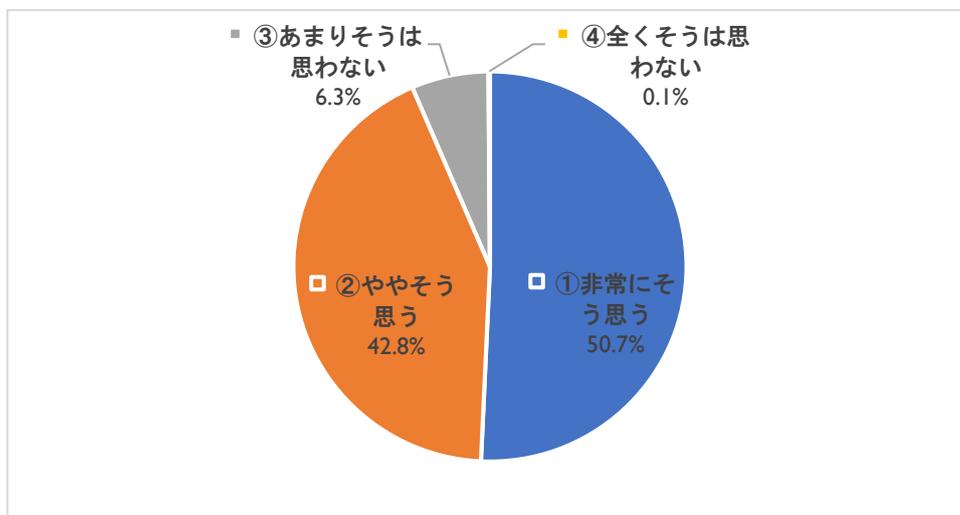
学校の小規模化について

問 10. 一般的に学校規模(1学級あたりの人数や1学年あたりの学級数)が小さくなると、以下のような影響が出ると言われていますが、あなたはどのように思いますか。(1)～(15)について、全てお答えください。(n=820)

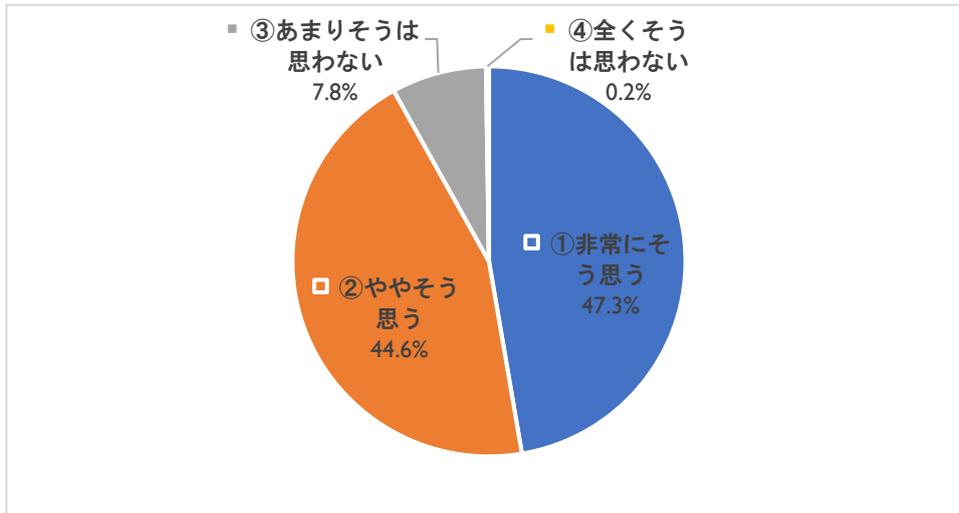
(1) 教員の目が届きやすく、一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすい



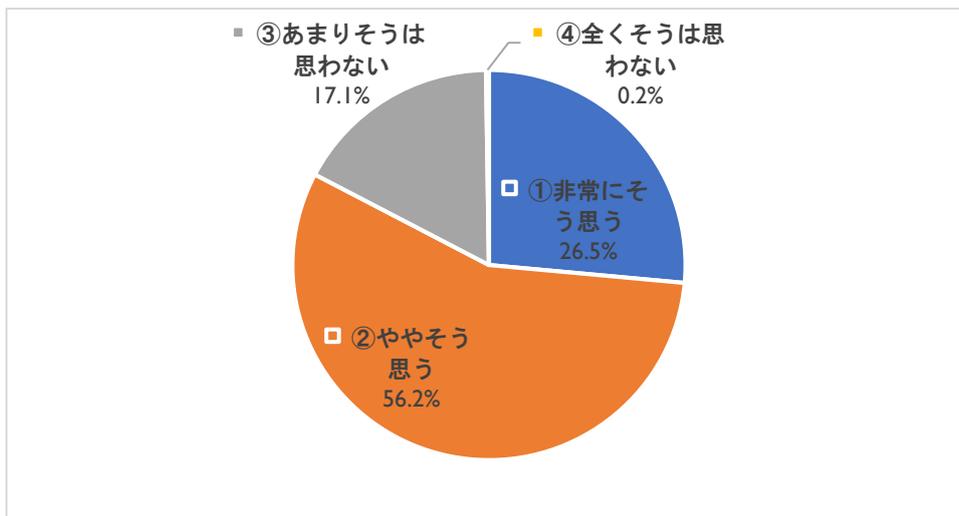
(2) 授業や学校行事等で発表や活躍ができる機会が多くなる



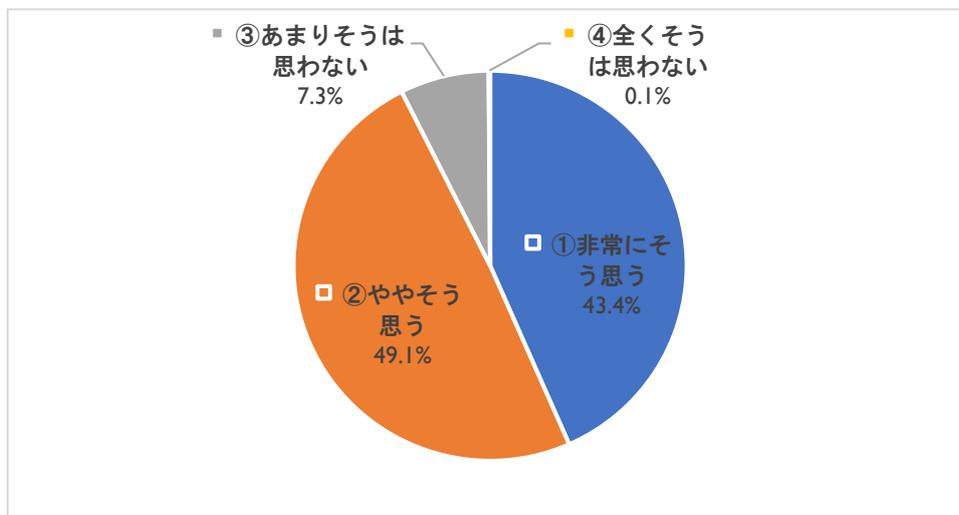
(3) 様々な活動において、一人ひとりがリーダーや役割を担う機会が多くなる



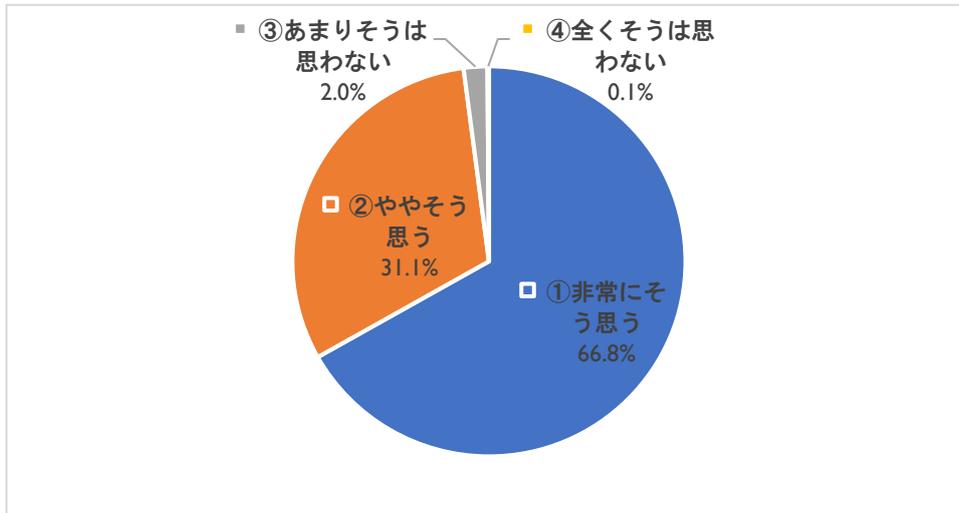
(4) 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい



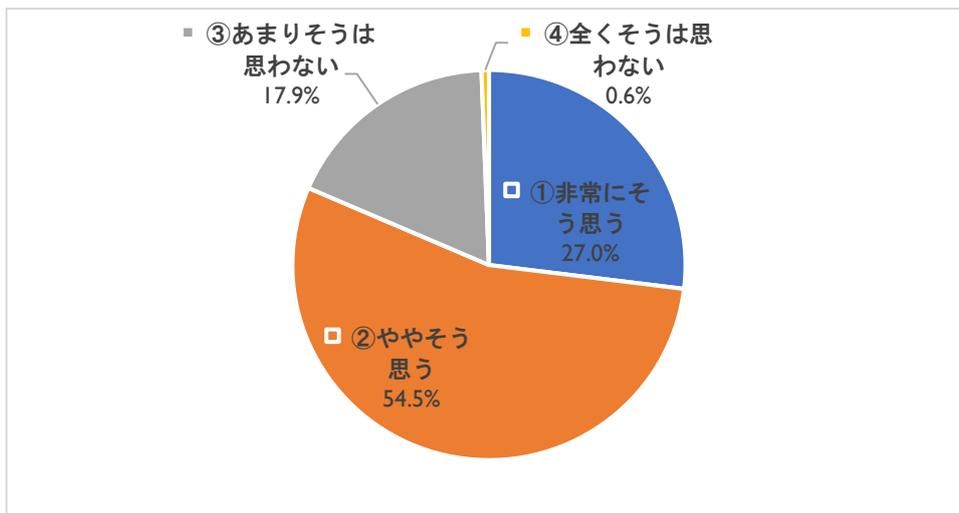
(5) 学年を超えた交流や学習活動が行いやすい



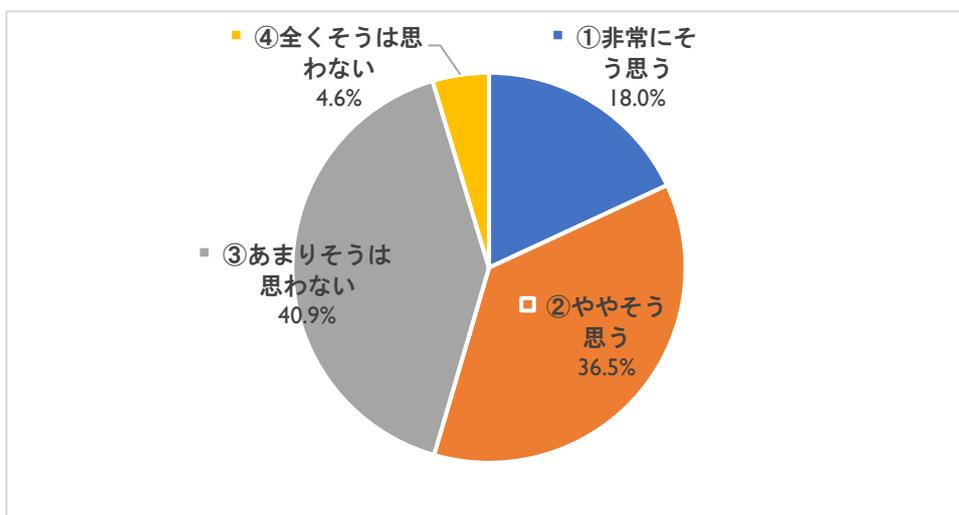
(6) 教材・体育館等について、余裕を持って使用できる



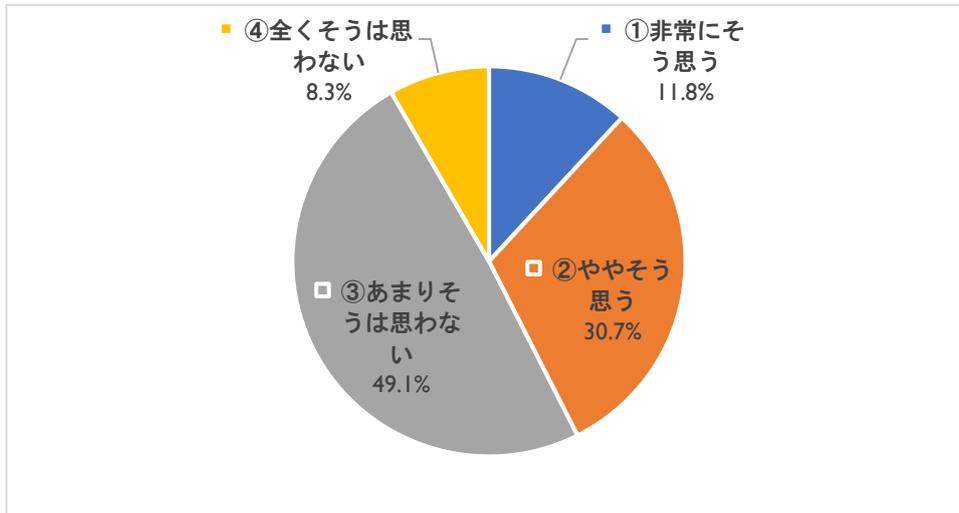
(7) 学校、地域、保護者が一体となった活動がしやすい



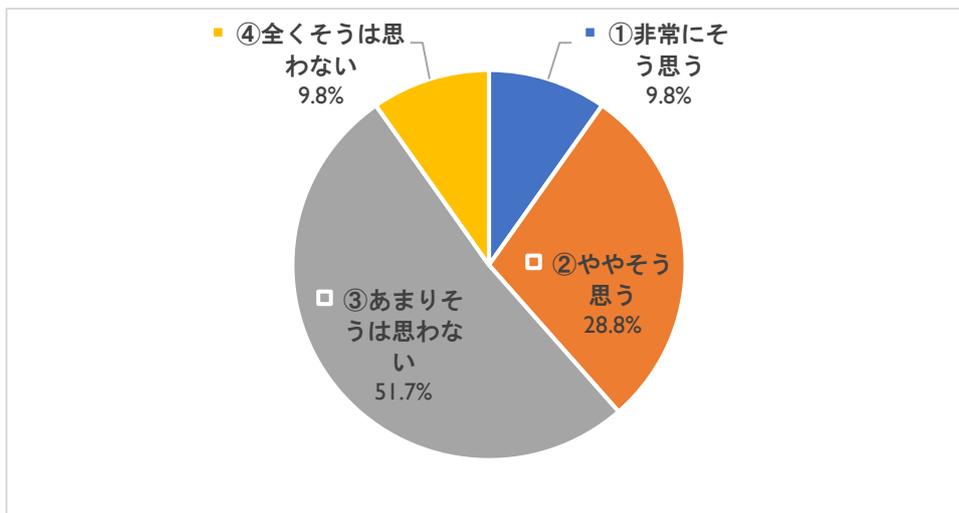
(8) 子ども同士が切磋琢磨する教育活動が難しい



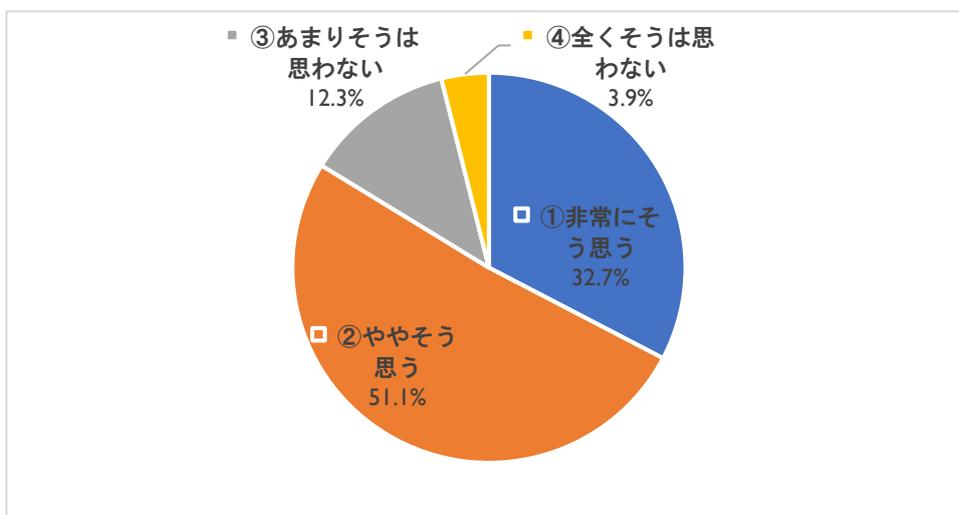
(9) グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導が行えない



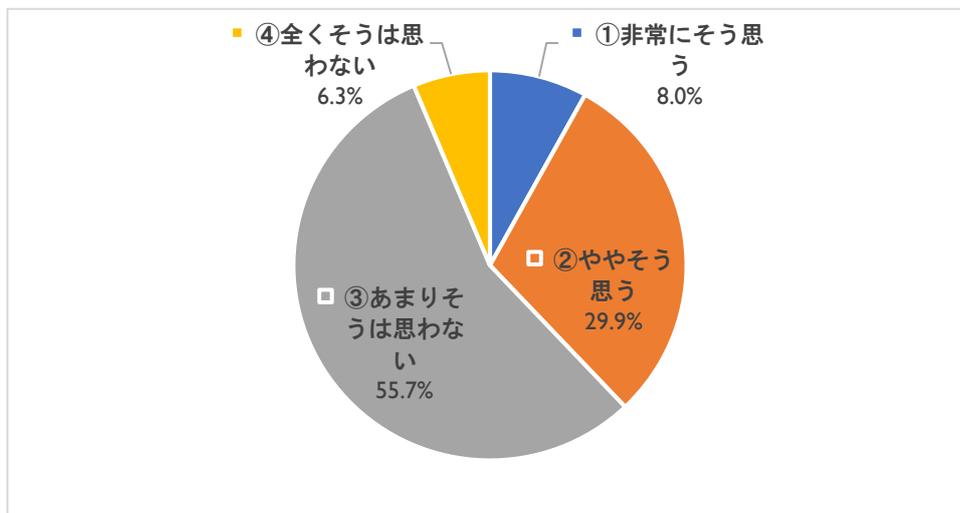
(10) 運動会等の集団活動における教育効果が上がりにくい



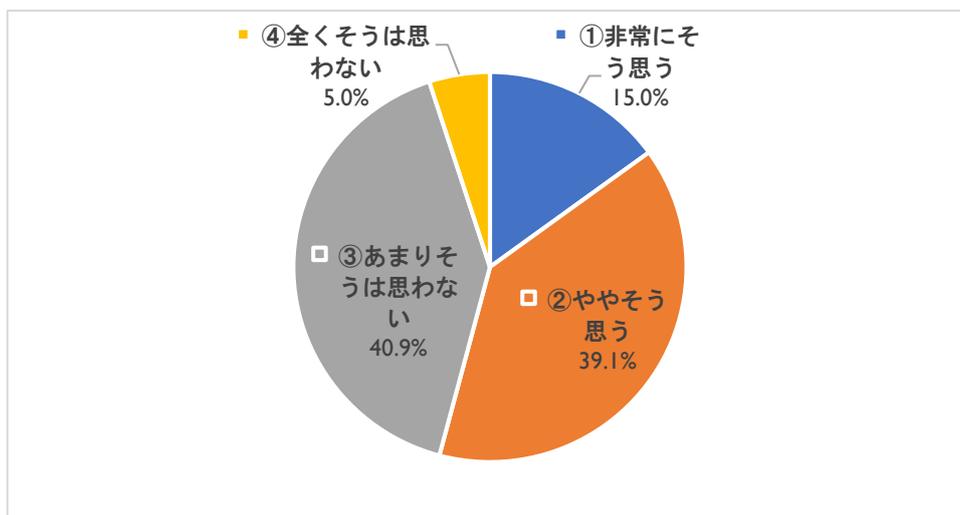
(11) クラブ活動や部活動の種類が限定される



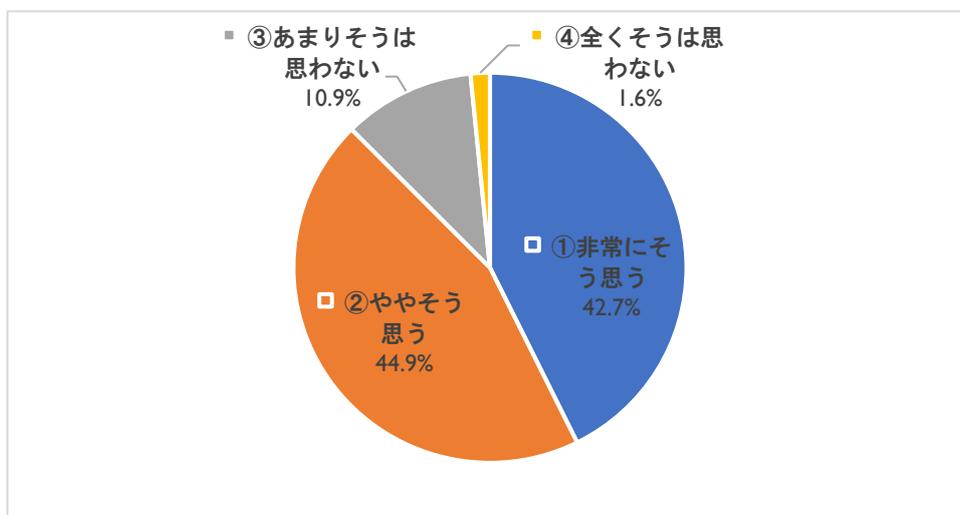
(12) 教員との距離が近く、頼りがちになる



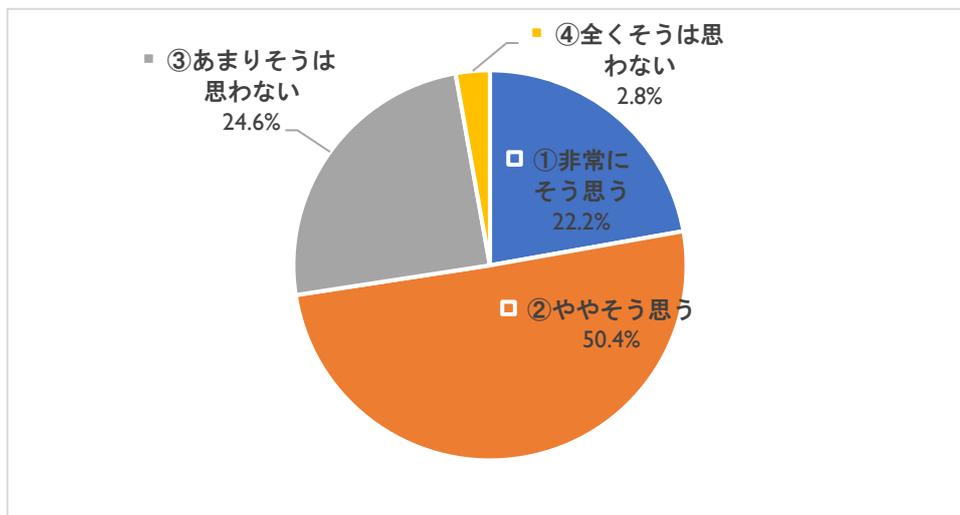
(13) 多様な考えに触れる機会が少なくなる



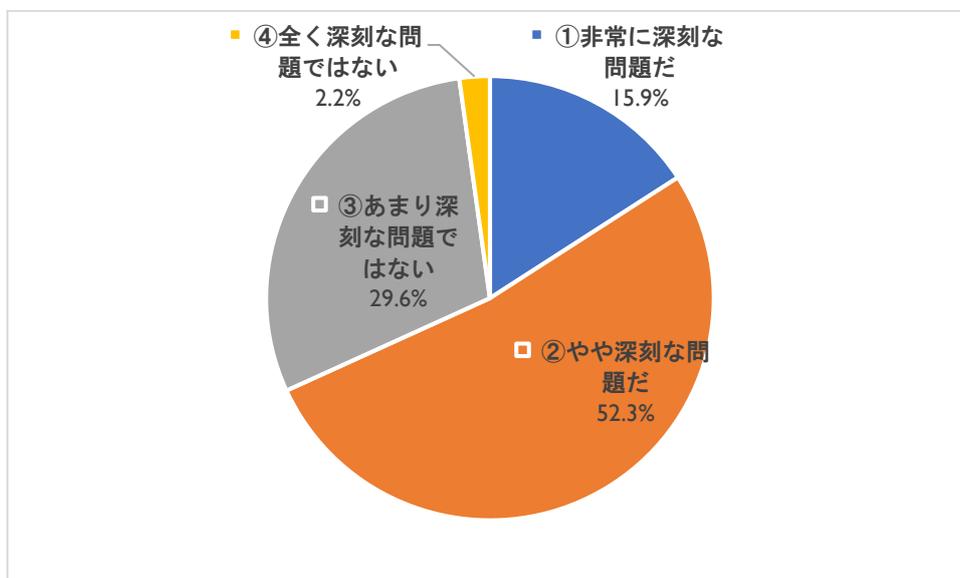
(14) クラス替えができないなど、人間関係が固定化しやすい



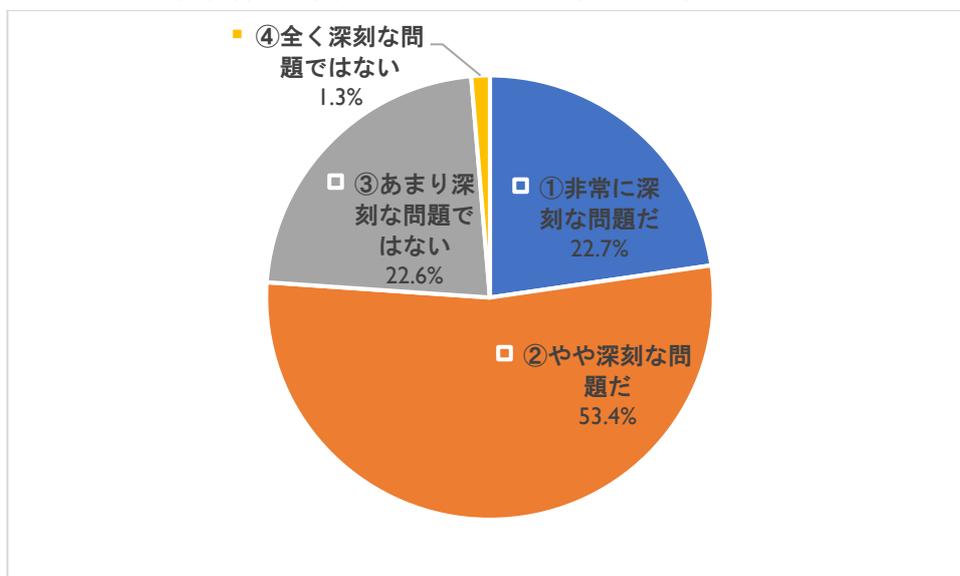
(15) PTA 活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい



問 11. 規模の小さな学校が増え、学校の教育環境等に影響が出ることについて、あなたはどの程度深刻な問題だと思いますか。(n=820)



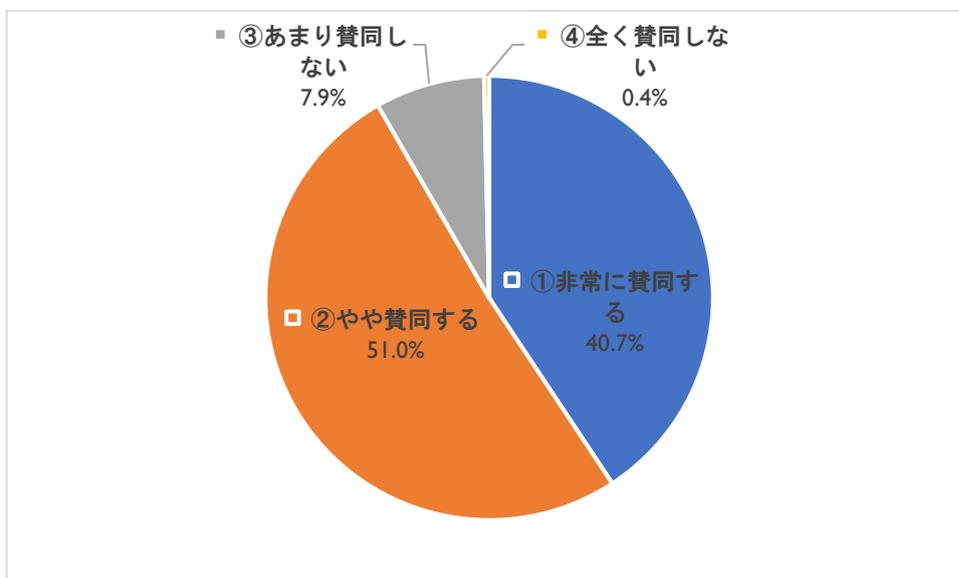
問 12. では、規模の小さな学校とそうでない学校との間で、教育環境等に差異が生じることについて、あなたはどの程度深刻な問題だと思いますか。(n=820)



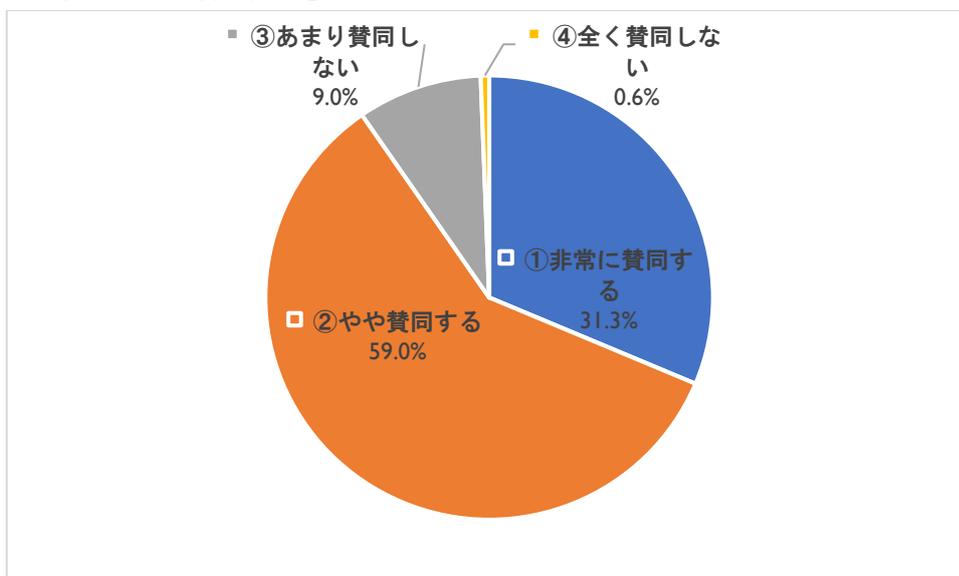
小規模特認校制度について

問 13.「小規模特認校制度」の導入や継続に関する以下のことがらについて、あなたはどのように思いますか。(1)～(2)について、全てお答えください。(n=820)

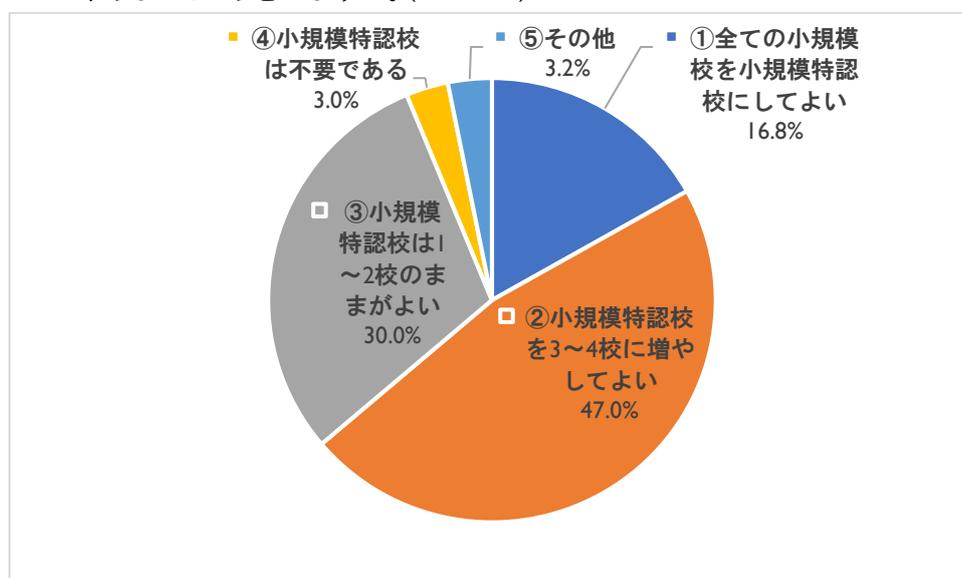
(1)「複式学級の解消」という目的について



(2)「少人数で特色ある教育の実施」という目的について



問 14. 問 13 を踏まえ、小規模特認校制度を導入する小学校(以下「小規模特認校」という。)の数について、あなたはどのように思いますか。(n=820)



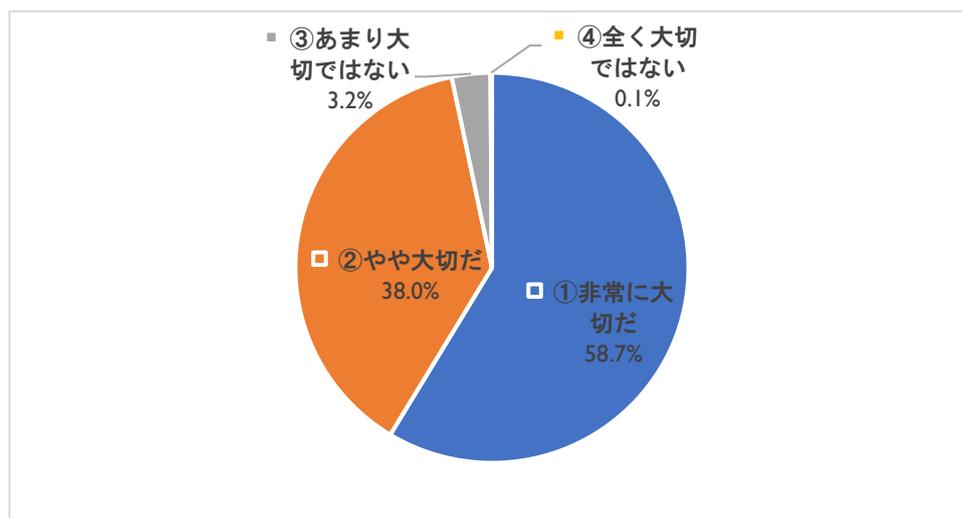
●その他のご意見

- ・ 市の南部だけでなく、中心部や北部の学校にも導入できるとよいと思います。
- ・ 小規模特認校に勤務したことがないため、メリット・デメリットが分かりません。答えるのが非常に難しいです。
- ・ 小規模特認校はあっていいと思うが、積極的に作ったり、入学を勧めるのはあまり賛同しない。
- ・ 小規模特認校制度を導入する必要性(目的に合う、効果がある)のある学校が、市内に何校あるかによると思います。単に、学校数だけで、判断することはできないと考えます。
- ・ 制度導入については、下生井小や網戸小への導入経緯を教訓として慎重に判断すべきかと思います。地域住民が小規模化に対し制度導入を望むのであれば意味のある方策だと思います。地域の活性化につながるよう、制度導入をきっかけに地域住民が地域の活性化に向けて他学区からの受入に前向きに取り組めるようになることが大切だと思います。
- ・ 増やすと現状の小規模特認校に児童が集まらなくなり、廃校に近づくのではないだろうか。この懸念が解消されない限り、増やすべきではないと考える。
- ・ 地域(学校)と保護者の要望があれば、その学校の特色に応じて可能になると良いと思います。
- ・ 本来の意図にあった小規模特認校制度の活用であればいいが、異なる意味での活用であるならば、制度そのものの見直しを図るべきと考える。

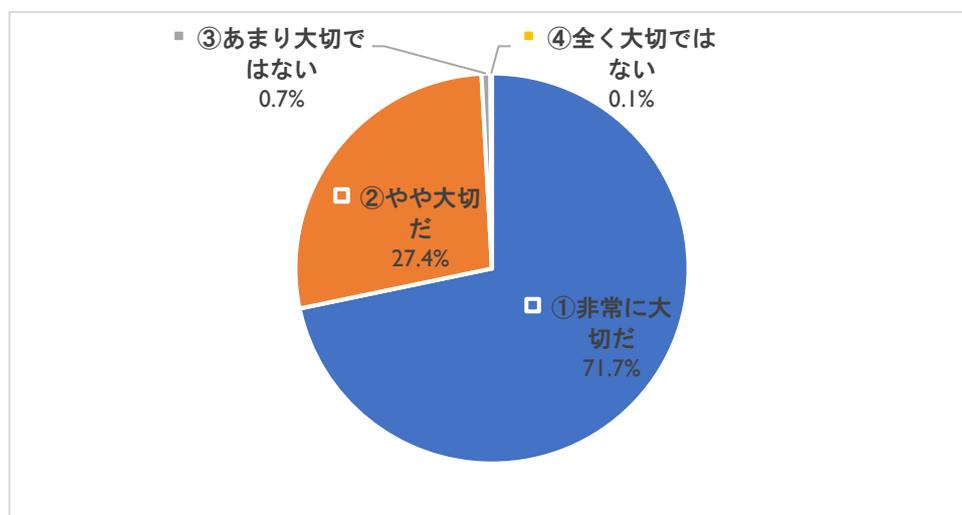
学校再編について

問15. 子どもたちのより良い教育環境と教育の質の充実を図るため、学校再編(通学区域の見直しや変更、学校の統合や新設などを行うこと)を進める際に、以下のことがらについて、あなたはどの程度大切だと考えますか。(1)～(10)について、全てお答えください。(n=820)

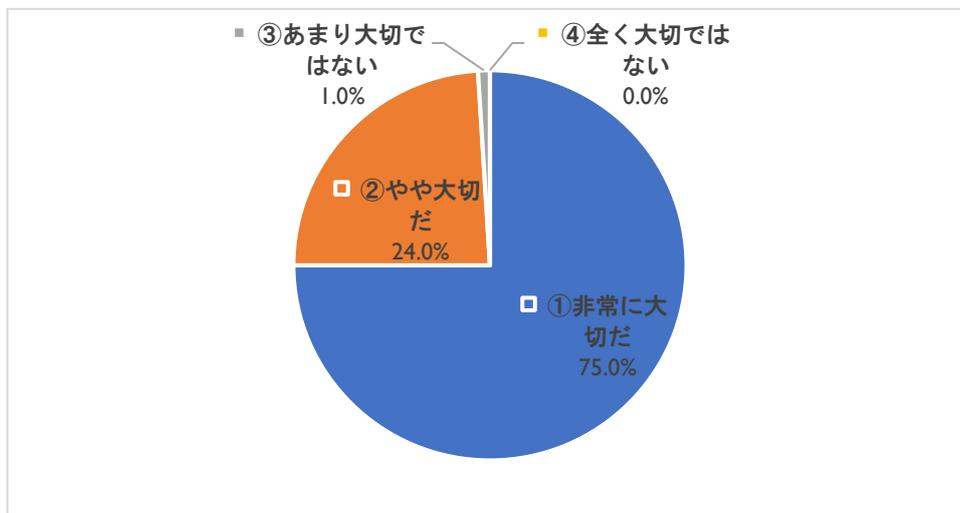
(1) 児童生徒及び保護者の意向を聞くこと



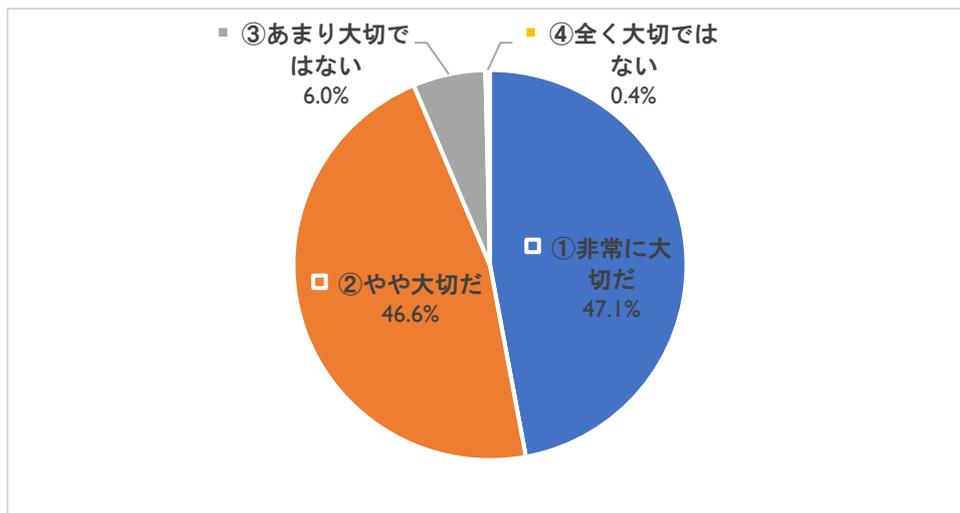
(2) 児童生徒の心のケアを含む環境変化等に配慮すること



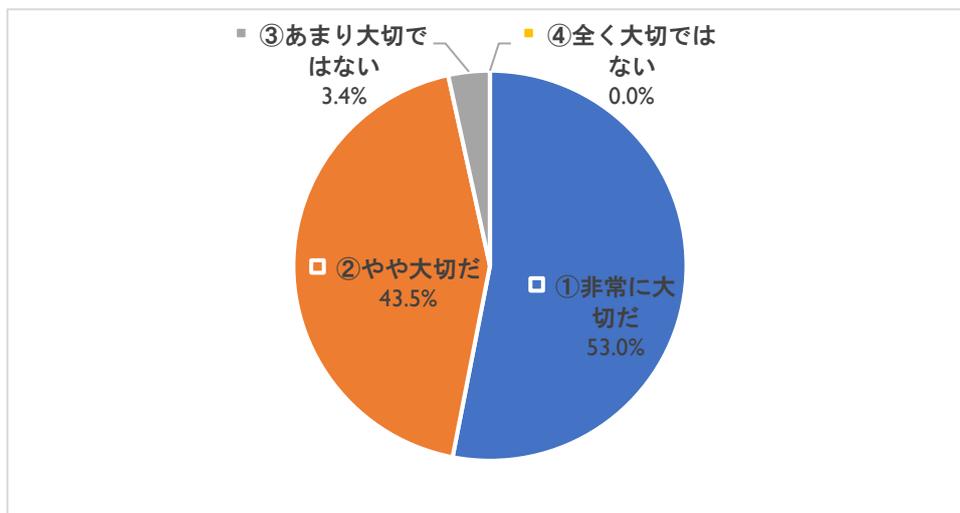
(3) 児童生徒の通学(時間・距離・方法・安全確保)に配慮すること



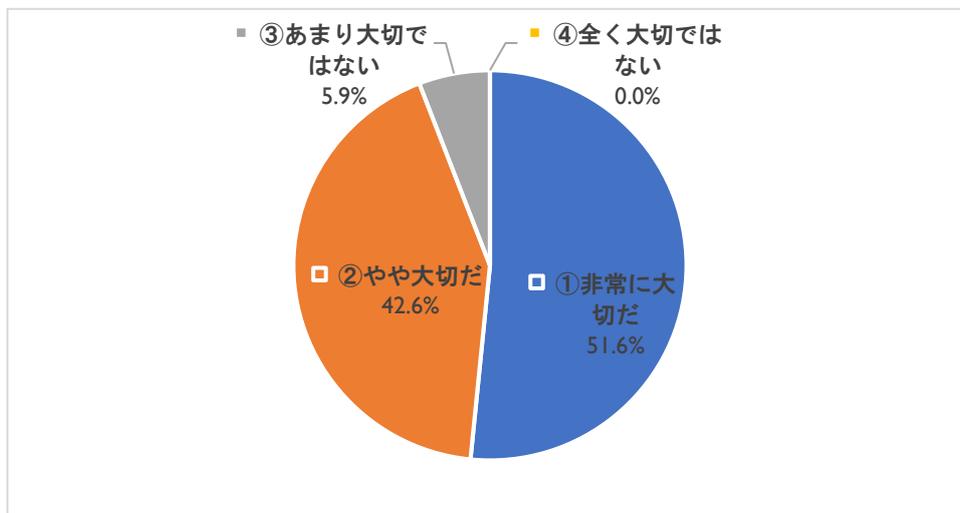
(4) 地域住民の意向を聞いたり、地域と学校の関わりに配慮すること



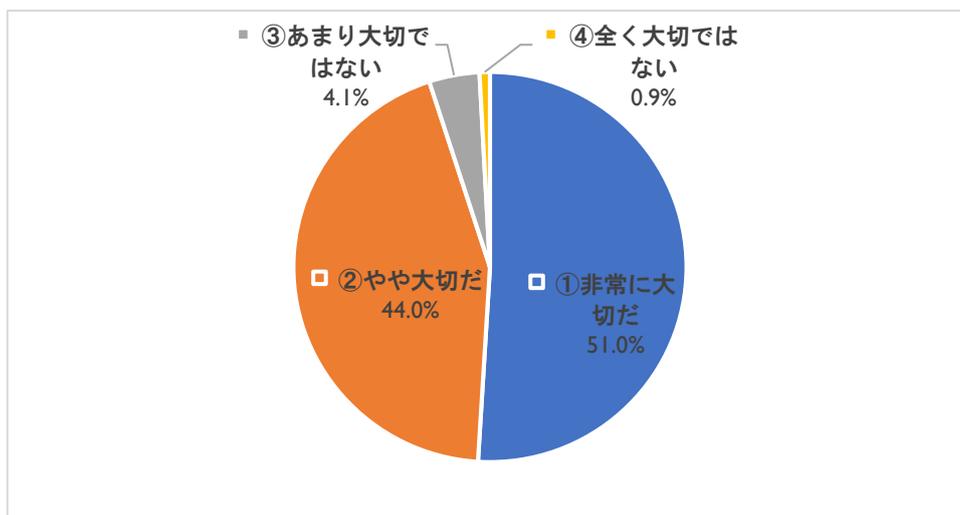
(5) 長期的な人口推計やその分析結果を考慮すること



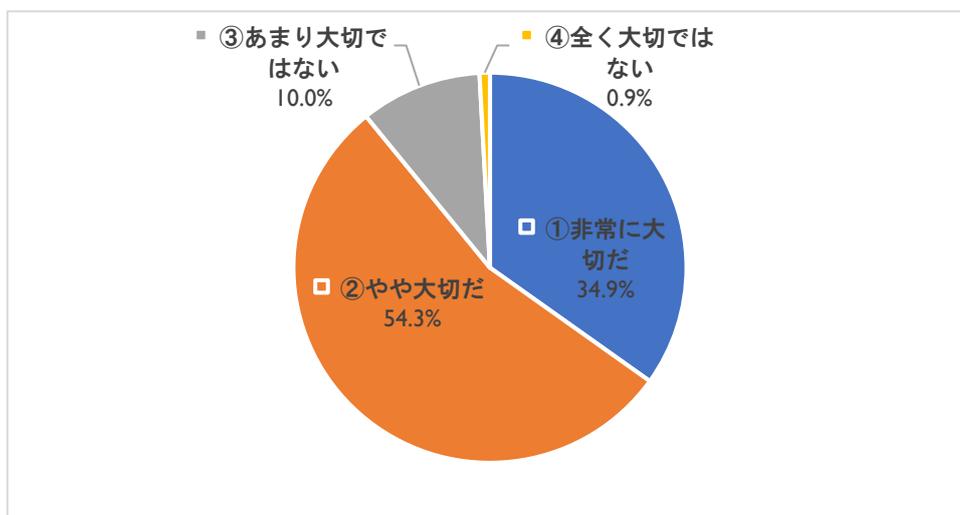
(6) 教育環境等の変化に合わせ、スピード感を持って取り組んでいくこと



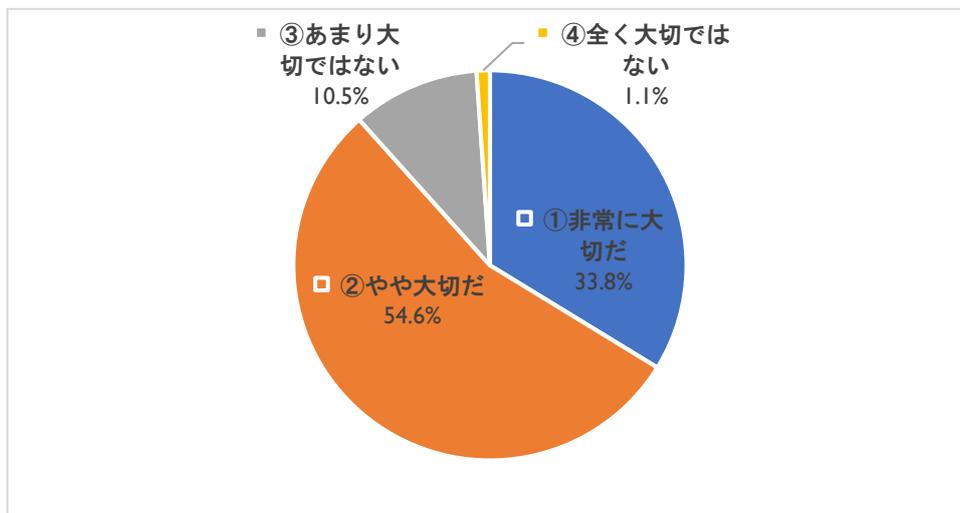
(7) 教育環境(施設を含む)の整備と財政負担のバランスを考慮すること



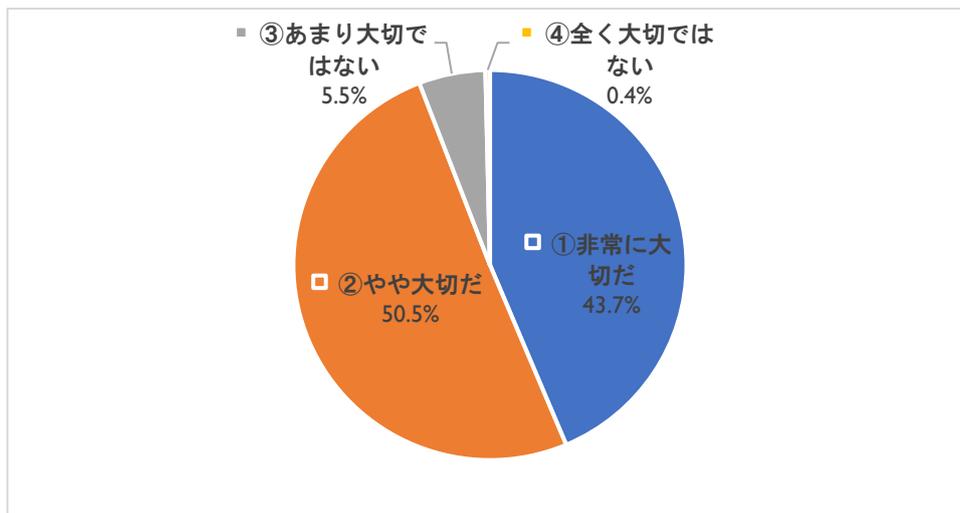
(8) 学校施設と他の公共施設との複合化や地域住民との共同利用等を検討すること



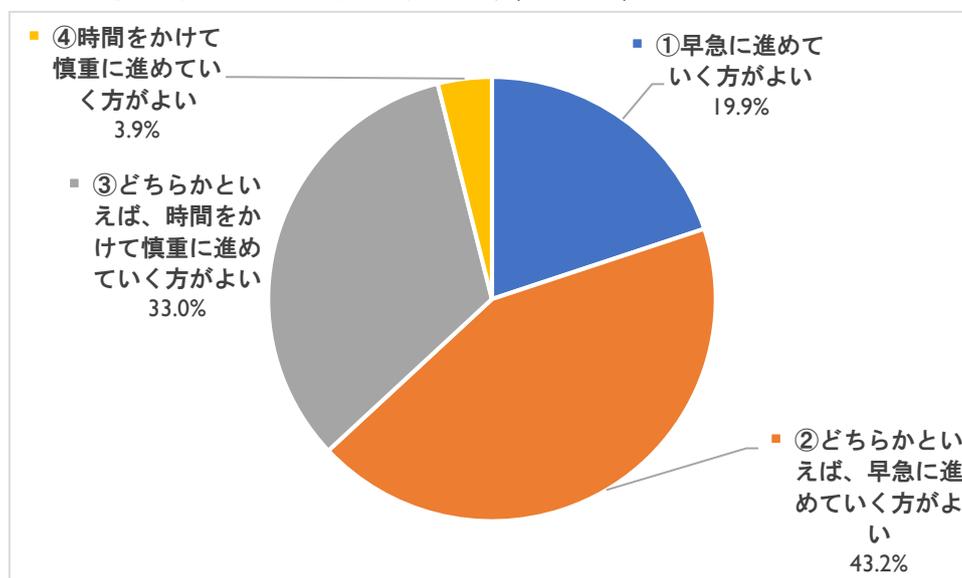
(9) 民間企業のノウハウや資金、様々なアイデア等を活用していくこと



(10) 将来的な学校のあり方を踏まえ、先進的、革新的な取組みの導入について検討すること



問 16. 問 15 を踏まえ、学校再編について、あなたは今後どのように進めていくことが望ましいと思いますか。早急に進めていく方が望ましいか、時間をかけて慎重に進めていく方が望ましいか、あなたの考えに近いものをお選びください。(n=820)



問 17. ご自身の勤務する学校が学校再編となった場合、教職員として、子どもたちにどのような配慮が必要だと思えますか。ご意見等があればお書きください。

【回答例】

●児童・生徒について

- ・ 学校統合などの環境変化による子どもの心のケアなどを最優先に考えたい。
- ・ 事前に子どもたちに対して十分な説明をし、子どもたちが学校再編によって起こる環境の変化に対応できるように、支援していくことが大切であると思います。
- ・ 子どもたちの多くは、環境が変わっても、逞しく適応していく力があると思いますが、そうではない生徒もいると思います。適応しにくい生徒へのフォロー体制など、考えていかななくてはならないと思います。
- ・ 子どもたちは、行き慣れた学校・仲のいい友達と離れなくてはならなくなる子が出てくると思うので、安心感が得られるような声掛けをするべきだと思います。

●学校再編について

- ・ 学校再編委員会を立ち上げて子ども、保護者にアンケートをとり、前向きに職員も一丸となり取り組むことが必要だと思います。
- ・ 地域の特色やアイデンティティーの保持。行事など大きい学校のみには合わせず、それぞれの学校の特色を話し合っ新しいものにしたい。
- ・ 再編は新入生からなのか、それとも、在校生もなのか。もし、在校生も、となった場合には制

服や体操着等の変更は保護者の負担も大きいので、卒業までは前の学校のものも可とする配慮が必要と考えられる。また、再編となって生徒数が減少、あるいは増加になった場合の部活動について、地域移行も踏まえ、しっかりと考えていく必要があると思う。

- ・ できることなら再編前から交流の機会をつくり、お互いが顔見知りになれるとスムーズにことが進んでいけると思います。特に小規模校が大規模校と合併する場合、どうしても小規模校の児童は萎縮したり、環境になじめないという状況が考えられるので、交流の機会や内容を吟味し合併を前向きに捉えられるような配慮が必要だと思われます。
- ・ 新設校の場合は在校生には現在の学校に残る・新設校に行くのどちらかの選択権があるとうよいと思います。

●通学について

- ・ 通学にかかる時間や交通手段、通学路の安全確認。それに伴う登校時間、下校時間の設定。（部活動や学校行事などの特別な場面での集合時間、解散時間も含む。）
- ・ 学区が広がった場合でも、通学が可能になるよう、スクールバスを配置することや、環境が変化していっても、学校が安心して登下校できる居場所になるよう心掛けることが必要だと思います。

●保護者について

- ・ どんなどきでも、子ども達や保護者の気持ちに寄り添った配慮が必要だと思います。
- ・ 保護者からの十分な理解を得ることと児童の登下校の安全がきちんと図られること。
- ・ 児童・生徒、保護者、地域にアンケートを行うなど、声をよく聞き、納得をえた上で進めること。
- ・ 子供たち、保護者への丁寧な説明。特に、変化に敏感な支援を要する児童の心のケアとある程度の見通しをもたせること。トライアンドエラーで先生たちも失敗することがあるから、教師、子供、保護者が一緒になって学校を作っていくという意識。

●地域について

- ・ 地域とのつながりの大きい地域であるがゆえに、再編となり身近にある学校を離れなければならなくなることで、地域からの学びが減ってしまうことも心配である。
- ・ これまでの本校としての歩みをどのように残していくか。また、地域の拠点としての学校の役割をどのように今後引き継いでいくかを考えていくことが大切である。
- ・ 自分たちは合併させられたというような卑屈な感情に陥らないようにする必要がある。また、各生徒が住む地域について、歴史的な背景や人とのつながりなどを見失わないように配慮する必要がある。

●学級・学校規模について

- ・ 1クラス30人以下であれば教員の目が届きやすい。決め細かな指導ができる。

- ・ 今担任しているクラスは 8 人のため、もし再編してクラスの人数が増えるとしても、一度に 40 人近くのクラスにするのではなく、20 人程度のクラスにさせていただいた方が、子供たちの戸惑いも少ないと思う。
- ・ 本校は単学級の小学校のため、1 年から 6 年までクラス替えがないまま人間関係が固定されてしまうというデメリットがあるが、異学年交流は教員の働きかけではなく自然に形成されているメリットもある。

●教職員について

- ・ 大規模校でも、様々な人間関係や発達上の問題を抱え、一斉活動に入れない生徒が増加している。教師の対応にも限界はあるので、規模の問題とともに、教師の加配を思い切って増やしていくことも大切であろう。小規模校では教師数も少なくフォロー体制が不十分であることも考えられる。生徒のフォローと教師間のフォローができるような経験豊かな教師を配置していくことがこれからの学校では必要ではないか。
- ・ 新しい環境に子どもが慣れるために、少人数の学校が大きな学校と統合になるときは、少人数の学校教員がそろって一緒に異動できるようにすると、子どもたちは、安心できるのではないかと考えます。
- ・ 多くの教員で児童生徒を育てることが望ましいと思う。教員を増やしてほしい。

●その他

- ・ 学校再編し、複数の学校が一つの大きな規模の学校へ合流する形で統合するのであれば、校舎など古い設備のままの統合はできれば避けたほうがよいと思います。また、合流して統合する形で、合流してくる子どもたちに設備など不利益がないように、環境などを整えることが必要だと思います。
- ・ 学校再編におけるメリットとデメリットを多方面の方から意見を聴取し、その一つ一つについて検証した上で、地域、保護者、子どもたちに丁寧な説明をした上で、デメリットについてはその具体策を示すことが大切かと思えます。
- ・ 子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、再編に関する情報を速やかに提供し、地域・保護者・子ども・教職員が、自分の学校について見通しをもてるようにすること。
- ・ 大きな災害や、事件が起こった時に子供達を守ることを一番に考えるのが学校だと思います。どんな場所であっても、子供が安心して、安全に過ごせるように、全ての関係する大人が、全ての子供達をサポートしなければならないと思います。
- ・ 明るい展望。これまでの環境を否定せず、いろいろな経験をすることがこれからの人生を豊かにすることに目を向けさせたい。
- ・ 子供を中心とした連携の輪を保つ事。コミュニケーションの大切さと信頼関係。

問18. ご自身の勤務する学校が学校再編となった場合、教職員として、市教育委員会または県教育委員会にどのようなことを要望したいですか。ご意見等があればお書きください。

【回答例】

●教職員について

- ・ 欠員や教科の偏りなく、バランスよく教員が配置されてほしい。
- ・ 1クラスの人数が今は多い。特別支援クラスの児童を含めるととも1人で回せる環境にない。1クラス20名ぐらいになるようにしてほしい。
- ・ 再編を行うには、各係に新しい教育計画の作成などの負担がかかりがちかと思えます。しかし、教員の心身の健康がよりよい教育につながると思えますので、負担軽減のため、それ専属の人員を置くなどご配慮願いたいです。
- ・ 再編前の学校に勤務していた教員を少しの人数でも一緒に新しい学校に赴任できるとよいと思えます。
- ・ 学校を統合するにあたり、教員も削減できると思う。現在は35人学級という制度で動いているが、数年に1度クラスを2つに分けるなどの柔軟な対応ができるとありがたいという意見は統合数年経ったあたりから出ていた。教職員を多めに配置するなどの対応で、再編したからこそ起こりうる課題に、学校独自に対策がとれるように配慮してほしい。

●学校施設・環境整備について

- ・ 学校によっては校舎等の施設が老朽化していることを踏まえ、学校規模も大切ですが設備面も含めて慎重に検討していただきたい。
- ・ 学校施設の修繕や新築において、早い段階で学校に相談してほしい。学校への相談があっても要望を出した時点で変更不可能では教育現場に即した環境を整えられない。
- ・ 学校が再編になった場合にどこの学校を選んだとしても、平等な生活環境になるようにしていただきたいです。(学校の設備環境等)
- ・ 受け入れ生徒数と空き教室のバランスを考慮してほしい。特別な配慮を要する生徒の増加に伴い、生徒や保護者対応などに柔軟に使えるスペースがほしいです。
- ・ 小規模校だからこそ、ICTの導入を積極的に行って欲しい。

●保護者について

- ・ 十分に保護者の意見を聞くことが必要だと考えます
- ・ 学校現場、地域、生徒、保護者等の意見を丁寧に聞き取り、可能な範囲で反映できるようにしていただきたい
- ・ 児童生徒、保護者、地域住民への丁寧な説明と理解の促進。

●地域について

- ・ 地域と学校の連携について支援をしていただきたいです。学校を核にした地域づくり、地域学校協働本部の設置など。
- ・ 学校再編となれば地域同士話し合うこともあると思います。また、再編に向けて、当該校への人員加配もお願いしたいです。
- ・ それぞれの住民の意向を受けとめ、進めていただきたいと思います。すべて同じ方向を向くといのは難しいと思いますが、地域の理解が得られないとうまくいかないと考えるからです。
- ・ 通学方法の利便性等、住民、保護者の希望、考えを良く聞くことを望みます。他地区で、不満を解消されないまま再編されてしまったという声もいまだに聞かれます。また、無理な再編をすれば、教職員に負担がかかります。当事者(地域住民と職員)の意見をとにかく良く聞いていただきたく思います。

●学校再編について

- ・ 単なる数合わせではなく、再編となるメリットが児童生徒、保護者、地域住民に具体的に感じられる施策が重要であると考えます。
- ・ 各学校の現状、教職員の数、生徒数等のバランスを十分に検討していただいて、再編していただきたいと思います。
- ・ 学区のバランスが悪いと思うので、近隣学校との距離等も鑑みて学区を再編成する。
- ・ 地域の良さや環境は今後も活かしてほしい。また、地域の方の拠り所として存在価値があったので、今後も何らかの形で市域の拠り所としての存在価値はあってほしい。
- ・ 学校再編に際し、新しく学校を立ち上げる場合などは、人事異動を少し早く発表し、4月から他の学校と同じように始められるよう、学校の環境を整える期間をとっていただきたい。これまで、新しい学校(新設、小中一貫校)の立ち上げは大変な労力と、環境整備に時間がかかったとのことですので、検討をお願いします。

●通学路について

- ・ 通学路の街灯や自転車通行帯等の整備。必要に応じて設置。通学距離によっては、スクールバスの確保。
- ・ 通学にあたって、スクールバスを準備できるかは、保護者の安心につながっている。ぜひ、統廃合の際には、スクールバスの配置を是非お願いしたい。

●その他

- ・ 登下校の安全確保とスクールバスを含める多様な方法の確保、PTA の活動内容の見直しを図ることで他地域の保護者が困らないようにする。または、活動内容を大幅に削減する。上記のことを教育委員会と学校と地域と保護者でもって協議していくことが必要であると考ええる。

- ・ スムーズな学校再編になるような指示やマニュアル、支援。
- ・ 子どもたちの一番近くで関わっている教職員の声にぜひ耳を傾けてほしいです。学校再編は教育委員会だけでなく、学校とも話し合っ決めていく必要があると思います。
- ・ 伝統にこだわらず、新しい教育を模索してほしい。
- ・ 元々の学校の歴史を尊重して残してほしい。
- ・ 情報を、その都度、共有していただきたいと思います。そのために、市教委側の窓口になる職員を明確に位置付けて、学校側の思い・要望、保護者や地域の思い・要望等を聞いていただきたいと思います。また、市教委側がすべきこと、学校側がすべきことについて明確にいただき、学校に対し、ご指導ご助言をお願いします。学校再編については、担当する部署だけで対応できる話ではないと思いますので、早い段階から課や係を超えて部全体で対応していただくことが必要だと思います。

問 19 将来を見据えた小・中学校等のあり方、学校適正配置等について、ご意見等があればお書きください。(1000 字以内で記載してください)

【回答例】

●通学について

- ・ 交通手段を徒歩・自転車のみでなく、積極的にスクールバスや保護者送迎を取り入れるべきだと思う。理由としては、最近では犯罪や熱中症による死亡事故等も発生しているため。
- ・ 現在の学校配置もそうかとは思いますが、その地域に建設された学校に通う距離や通学時間が、ある程度、どの家庭から通っても同じになるようにしていただきたいです。学区外から通わなければならない場合には、スクールバスを運行するなど、公共の交通機関で通えるようにしていただきたいと思います。

●学校再編について

- ・ どの学校に通う生徒も同じような環境(クラス生徒数、教員数、職員構成、施設設備)で学習できるようにすることが望ましい。
- ・ 人と人のつながりが希薄になっていたり、コミュニケーションをとることが苦手だったり、人との関係づくりが難しい子が多くなっている現状を考えると、学校という小さな社会の中で、大きな社会に出ていくためのスキルを身に付けることはとても大切だと思う。人の温度を感じながら育つ心の教育のためにも、いろいろな人と出会えるある程度の規模は必要だと思う。
- ・ 現在に至るまでに学校間での格差が出てくることは容易に予想された。(人数的なこと)動くのが遅すぎたと言わざるを得ない。学校に通う保護者や入学予定者にアンケートを取るだけでなく、地域住民の考えをしっかりと聞くことも大切であると思う。下生井、網戸以外にもどんどん減り続けている学校はある。そこに触れてこなかったことは問題であると思う。
- ・ 現場で働く教職員と教育委員会が一緒に行っていくことが大切だと思います。

- ・ 学校再編は市の財政的な面からも必要なことかと思えます。しかし、地域から学校がなくなるとは、地域から若い世代が消え、活力の低下は免れません。難しい舵取りかと思えますが、再編するしないに関わらず、何よりも大事なことは子どもたちがどうしたらより良く成長できるかだと思います。
- ・ 学校は地域のアイデンティティーなので、単純に人数で統廃合は反発が大きいと思えます。人口問題は学校や地域の責任ではなく、宅地化や人口定着など都市計画としての行政の責任です。学校施設老朽化についても、適正配置ありきなのでは、と思っている保護者もいます。
- ・ ある程度の人数がいないと切磋琢磨する機会や折り合いをつけるなど、小さな社会の中で身に付ける社会性を育てるのが難しい一面があるので、一クラス20人程度が望ましいと考える。
- ・ 子ども達が有意義に充実した学校生活を送れるよう配慮してほしい。子ども達の成長や学習効果を考えた学校適正配置等であってほしい。保護者や児童の希望、転校等の変更に柔軟に対応できる制度であってほしい。

●学校の選択、学区について

- ・ 学区の柔軟性を認めると、集まりやすい学校に集中することになっては本末転倒。人的な配置を改善し、特色ある学校作りをさらに進めることや、小規模校解消のための通学区の柔軟性をもたせること。
- ・ 中学校も今以上に弾力的に学校を選べるようにしても良いのではないのでしょうか。
- ・ 居住地の過疎化によって子どもの教育が左右されないよう、長期的な視点に立った教育行政をお願いします。例えば、市内を何等分かに分けて、その範囲内での通学を自由選択できるようにするなど。

●教職員について

- ・ 慢性的な教員不足が現場にかなりの負担感をもたらしていると感じます。また、40～50代の教員が少ないことで、責任ある仕事を引き受ける年齢が次第に低年齢化しているため、子育て世代に大きな仕事が回ってくることも増えたように思います。経験が浅い中で不安を感じている教員も多いのではないのでしょうか。さらには、校務分掌の偏りも顕著です。休みを取りづらく、年休は全く消化できません。早急に人数の確保をお願いしたいです。
- ・ 適正配置により、慢性化している教職員の不足にもメスを入れることができると感じます。しかし、教職員を減らすだけでなく、小中すべての学級や子ども一人一人に関わる教員の数や比率を高めてほしいと思います。手厚く、多くの目で子どもを見守り、教員の働き方にも良い効果が上がることを期待しています。
- ・ 様々な特性をもった児童がいる学校現場。どの学級にもそのような児童が多数いることを考えると、細かな対応(保護者対応も含め)が必要である。各学級の児童数を減らさない限り、

個に応じた指導はできない。学級の児童数を減らし、教職員の数を増やさなければ、教員への負担は増すばかりで、義務教育段階の児童に重要な教育を行えなくなってしまう。素晴らしい人材が、集まらないばかりでなく、離職していってしまう。

●学校施設・環境整備について

- ・ 校舎環境に差があることも、再編により解消されるとよい。
- ・ 適正配置を進めるにあたって、地域の方との対話を重視し、通学バスはもちろん、校舎等の施設設備や教職員を十分整え、魅力ある学校に再編していくことが大切だと思います。

●児童、保護者について

- ・ 子供たちが望ましい学級内児童数で人間関係を構築できるよう配置を考えていく必要がある。
- ・ 将来に渡って、児童の教育が充実できるように、よろしく願います。
- ・ 地域や保護者、子どもたちに不安が生じないように配慮していくことが大切だと思います。
- ・ 学校適正配置等については、たいへんデリケートな内容だと思います。何のために学校適正配置、学校再編を行うのかについて、子どものことを一番に考えての判断・決定をお願いしたいと思います。

●地域について

- ・ 将来を見据えれば、ある程度の統廃合は避けられないのではないかと思います。しかし、地域にとって学校は大切なコミュニティであり、地域から学校がなくなると、若者が戻ってこなくなり、子供がいなくなって地域が衰退してしまうという、切実な問題があります。適正配置を進めるにあたって、地域の方との対話を重視し、通学バスはもちろん、校舎等の施設設備や教職員を十分整え、魅力ある学校に再編していくことが大切だと思います。
- ・ 防災上の課題を抱える地域からすると学校がなくなることは、もしもの時にどこに避難したらよいかという問題が生まれる。学校があることで、地域が活性化されるきっかけにもつながると考える。しかし、小山市西部の地域は空き家が増えるが、調整区域のため家も建たず、人が入ってこないため、どんどん子どもは減っていく。学校適正配置だけの問題ではないように感じています。
- ・ 小さな学校は、地域との関わりが深いので、学校が再編されると、地域も変化する可能性を秘めていることを念頭にふまえ、それを機に地域が活性できるよう、衰退することがないようにしていかなばならないと思います。地域をふくめた学校再編、学校適正配置を考えていくことが、地域再生や活性化になると思います。

●小規模特認校制度について

- ・ 小規模特認校の中には、特別支援を必要とする児童や不登校になりかけた児童が通学して

いる学校もある。そのような場合は、そういった児童に対応できる人材の補充をして、誰もが安心・安全に学べる学校環境を作っていただきたい。

- ・ 小規模特認校が、現在南部の下生井小、網戸小だけなので、市の中心部や北部にも小規模特認校があると児童各々の教育的ニーズに合わせて、学校規模を選択することができてよいのではないかと。

●その他

- ・ 1 学級の人数について、特別支援学級在籍の人数が配慮されておらず、交流児童が多い学年は困難な面が多いと思う。今後、万が一特別支援学級在籍数が増えた場合が非常に厳しいと思う。
- ・ 小中一貫教育でも実践されていますが、中学校区内の小学校同士で普段から気軽に交流できる環境づくりが大切かと思えます。
- ・ 不登校児童・生徒の数が増加している。対応は継続していく必要があるが、タブレットを活用して、登校しなくても学びが継続できるような仕組みを作る必要もあるのではないだろうか。もしコンテンツを作るとしたら、それは民間に任せればよいと考える。
- ・ 学校適正配置をしていただくことで、毎年不足している学校予算や人材も再配分し、一校あたり十分な財源が確保できるのではないかと期待しております。